

NEWSLETTER

No.58

10 June 2014

・教員の研究室と電話番号・メールアドレス	・ ・ ・ ・ ・	1
・2014年度教員在室時間表	・ ・ ・ ・ ・	2
・2013年度国土館大学地理学会冬季巡検報告	・ ・ ・ ・ ・	3
・留学生・研修会報告	・ ・ ・ ・ ・	5
・2014年日本地理学会春季学術大会開催報告	・ ・ ・ ・ ・	6
・2013年度保存卒業論文一覧	・ ・ ・ ・ ・	9
・2013年度教員の研究業績一覧	・ ・ ・ ・ ・	10
・2014年度海外研修の開催日程決定	・ ・ ・ ・ ・	13
・新刊案内 (国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門』国際文献社)	・ ・ ・ ・ ・	13

【教員の研究室と電話番号・メールアドレス】

※地理・環境専攻専任教員は全員世田谷キャンパス(世田谷・梅ヶ丘校舎)にいます

	研究室の場所	研究室電話番号	電子メールアドレス
野口	世田谷校舎 10号館 2F1004 研究室	03-5481-3246	noguchi@kokushikan.ac.jp
長谷川	世田谷校舎 10号館 2F1003 研究室	03-5481-5247	hasegawa@kokushikan.ac.jp
岡島	世田谷校舎 10号館 2F1002 研究室	03-5481-3245	okajima@kokushikan.ac.jp
宮地	世田谷校舎 10号館 2F1001 研究室	03-5481-5278	tmiyachi@kokushikan.ac.jp
内田	世田谷校舎 10号館 4F1025 研究室	03-5481-5291	uchida@kokushikan.ac.jp
磯谷	梅ヶ丘校舎 34号館 8F 824 研究室	03-5451-8154	isogai@kokushikan.ac.jp
加藤	梅ヶ丘校舎 34号館 9F 904 研究室	03-5451-8164	k2kato@kokushikan.ac.jp

※教員が大学に在学予定の時間等は、次ページの教員在室時間表を参照してください。オフィスアワーは、基本的に先生が研究室にて、学生の質問等に答える時間です。

※オフィスアワー以外の面会・相談なども在室中に短い時間で済む用事であれば、大抵の先生は急用がない限りは応えてくれます。ただし、基本的には相談や面接等は、事前にアポイントメント (Appointment ; アポ) をとってからするようにしてください。オフィスアワーであっても、出張等で不在の場合や、他の相談者などがいるため時間が割けない場合もありますので、事前にアポを取る方がお互いに好都合です。大学生としての自覚をもった行動を心掛けましょう。

※したがって、教員の自宅、特に非常勤講師の先生宅への電話は、先生からの指示がない限りは控えてください。

※メールを活用しましょう。多くの先生が電話よりもメールでのアポの方が好都合です。ただし、教員のメールアドレスは携帯電話のものではありませんので、すぐ返信がくるとは限りません。余裕をもった連絡を心掛けてください。アポの際には、メールの標題に、学籍番号・氏名を明記してください。先生によっては、標題に番号・名前がないとメールを消してしまう場合があります (迷惑メール・ウィルスメール対策のため)。用件が必ずしも標題になくても大丈夫です。「こんにちは」といった標題のメールは即刻消される場合があるので注意してください。

【2014年度 教員在室時間表】

凡例

講義中
 オフィスアワー
 在室の場合が多い

※春のみ：春期のみ講義。 ※秋のみ：秋期のみ講義。

※金曜日は文学部関係の会議が集中する日です。会議のある先生は大学にいますが、ほとんど会えない場合もありますので、注意してください。第3または第4金曜日には**教室会議**（12：00～）・**教授会**（13：30～）があり、教員全員が会議に出るので、その日の午後はほぼ会うことができません。教授会の日程は年間予定表を参照してください。

曜日	時限	1	2	3	4	5	6
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	12:55～14:25	14:40～16:10	16:25～17:55	18:10～19:40
月	長谷川	(秋：日本地理学会業務のため不在)					
	岡島		秋のみ				
	磯谷						
	加藤		秋のみ				
	宮地						
火	野口				春のみ	秋のみ	
	長谷川					秋のみ	
	内田	春のみ			秋のみ		
	岡島						
	磯谷		町田校舎				秋のみ
	加藤						春のみ
水	長谷川				春のみ		
	岡島						
	磯谷						
	加藤						
	宮地						
木	野口						
	長谷川						
	内田	春のみ			秋のみ		
	磯谷						
	加藤						
金	野口						
	長谷川	(春：会議日以外は、日本地理学会業務のため不在)					
	内田						
	岡島						
	磯谷						
	加藤						
土	内田						

※長谷川先生：春学期・・・月曜日はほぼ終日在室していることが多いです。秋学期・・・金曜日はほぼ終日在室していることが多いです。

【 2013 年度 国土館大学地理学会冬季巡検（東京港巡検）報告 】

2013 年度 2 回目の巡検となる冬季巡検が、2014 年 2 月 13 日に東京都内で実施されました。参加学生は合計 10 名（1 年生 3 名、2 年生 6 名、3 年生 1 名）で、引率教員は加藤先生にお願いしました。また、オブザーバーとして宮地先生にもご参加いただきました。今回の巡検では「東京湾における水運と大都市・工業地域形成の関わり」について学ぶことを目的としました（図 1）。

2013 年度 国土館大学地理学会 冬季巡検行程表	
● 日 程	: 2014 年 2 月 13 日（木）
● テ ー マ	: 東京湾における水運と大都市・工業地域形成の関わり
● 引率教員	: 加藤幸治先生
● 集 合	: 都営大江戸線・ゆりかもめ 汐留駅
● 行 程	: 徒歩, ____ 路線バス, ____ ゆりかもめ, 御座船)
コース内容	
汐留駅.....カレッタ汐留.....築地六丁目____晴海客船ターミナル____IHI i-museアーバンドックららぽーと豊洲.....豊洲駅.....テレコムセンター駅.....海洋情報資料館東京みなと館（200 円）.....青海（御座船のりば：800 円）17:00.....17:30 日の出棧橋日の出駅（17:40 解散予定）	

図 1. 巡検の行程表

汐留駅で集合した後、まず汐留地区の再開発の全体像を地図や資料を基に確認しました（写真 1）。その後、カレッタ汐留の展望台にてベイエリアの景観を確認しました。この地域は、都市再開発が進むなかで、工場や倉庫からオフィ



写真 1. 汐留地区の再開発について説明する加藤先生



写真 2. カレッタ汐留から見た築地市場

スビルや集合住宅が増加している点に特徴があります。また、眼下には築地市場が見えました。宮地先生からは、築地市場の役割や豊洲地区への移転についてのお話を伺いました（写真 2）。その後、バスで向かった晴海客船ターミナルでは、停泊中の客船・日本丸を見ることができました。さらに豊洲地区へ移動した私たちは、IHI の博物館を見学し、IHI が手掛けた吊橋やジェットエンジンの開発などについて詳しく学びました。午前中最後の見学地は、アーバンドックららぽーと豊洲でした。近年、豊洲地区は大規模な集合住宅の建設が進むとともに、ららぽーと豊洲のような大規模商業施設も新たに開業しました。「新しい街」の様子を見学しながら、ららぽーと豊洲で昼食となりました。

昼食後、ららぽーと内に残された豊洲ドック跡地を見学（写真 3・4）した後、ゆりかもめに乗って青海まで移動し、海上保安庁が公開している海洋情報資料館を見学しました。ここでは、デジタル機器やコンピュータがなかったころ、どのようにして海の深さや流れ、満ち潮・引き潮を推算していたかなど、かつての海洋調査や海の測量を知ることでできる機器や、日本で最初に作られた海図などが展示されていました。また、最新の海洋情報業務を紹介するパネルなども展示されていました。そのほかにも伊能図の複写図や、海外の古地図なども展示されていて海洋以外についても知ることができました。

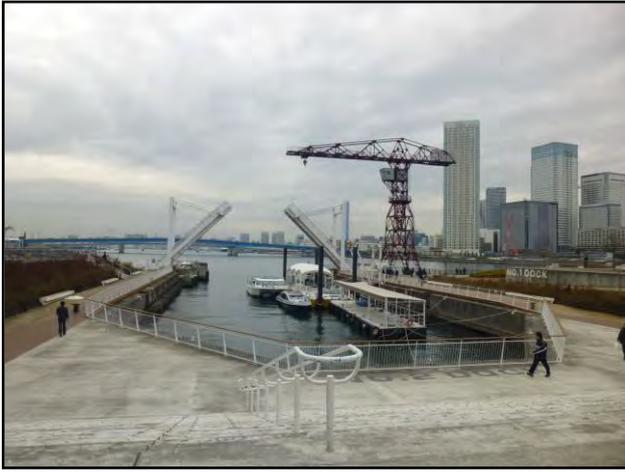


写真3. アーバンドックららぽーと豊洲ドック跡地



写真4. 豊洲ドック跡地で集合写真

その後、徒歩で東京みなと館へ向かい、館内を見学しました。東京みなと館では、主に港の機能について学びました。館内では国際物流の一翼を担う東京港の役割について大型模型や映像、パネルなどで詳しく紹介されていました。また東京の臨海副都心開発計画やその開発状況などに関してもさまざまな展示がされていました。展示物を見ることで、東京湾の埋め立てが行われていく過程や、コンテナ埠頭の仕組みがわかりやすく学べたと思います。船の煙突部分にはマークが描かれていることや、描かれたマークをファンネルマークと呼ぶことをはじめて知りました。また窓からは青海コンテナ埠頭や、対岸の大井コンテナ埠頭を見ることができました(写真5)。



写真5. 東京みなと館から見た青海コンテナ埠頭



写真6. 御座船 安宅丸が着岸する様子

そして、巡検の最後には、御座船 安宅丸で東京湾のクルージングを行いました(写真6)。海上からは、コンテナの積み下ろしをするガントリークレーンの他に、午前中に見学した晴海客船ターミナルと出航する客船を見ることができました。また、レインボーブリッジの橋の裏側を見ることができ、ベイエリアの景観を観察できました。海上からみる東京は様々な顔があることを発見しました。

私たちは、この巡検を通して沢山のことを学ばせていただきました。参加して下さった方々に今回のテーマである「港」に関して、少しでも多くの知識が身につけていることを願っています。そして、今回の巡検の計画を立てる段階から親身に相談ののって下さった加藤先生をはじめ、参加者の方々の協力のおかげで、当日はトラブルもなく無事に巡検を終えることができたことを感謝しています。ありがとうございました。

国土舘大学地理学会行事部 鈴木 貴子, 中根 敏江

【 留学生研修会報告 】

地理・環境専攻3年 王 磊

中国湖南省から地理・環境専攻に入学した王磊（おう らい）です。今、3年生です。

今年の2月、宮地先生の推薦をいただき、北海道国際交流センターが主催した「冬のつどい研修会」と共立国際交流奨学財団が主催した第78回「沖縄伊江島研修会」に参加させていただきました。今回は2つの研修会の様子をレポートします。

「冬のつどい研修会」は、北海道において人と人との交流を通じ、世界の生活文化の理解を深め、国際相互理解教育の推進と世界の平和に貢献することを目的として実施されました。今回の研修会には、サウジアラビア、台湾、香港、中国など世界15の国や地域から70名の留学生が参加しました（参加者の約8割が、サウジアラビアと台湾、香港の学生でした）。サウジアラビアでは、サウジアラビアの大手石油会社が地元の高校から優秀な学生を選抜し、中国、韓国と日本などの国への留学を支援しており、今回参加したサウジアラビアの学生もそうした奨学金制度を活用している学生たちでした。

私は2月12日午後札幌に到着し、夜にさっぽろ雪祭りを見学しました。翌日、バスで札幌市から移動し、白老町にあるアイヌ民族博物館を見学した後、伊達市に近い昭和山、洞爺湖を見学しました。その日の夜は、八雲町の大沼に宿泊し、14日は一日スキーを体験しました。15日の午前中、大沼公園のじゅん菜沼で氷上の釣り体験をしました。16、17日は、道内の大学生との交流会や、函館市の散策が行われました。



写真1. さっぽろ雪まつりを見学



写真2. 「北海道の湘南」と呼ばれている伊達市の遠景
※移住政策が積極的に実施されています。

もう一つの研修会・「沖縄伊江島研修会」は、沖縄の地域文化を深く理解し、交流と生活体験を目的として行われました。この研修会の主催者は、共立国際交流奨学財団であり、現在の理事長は国土舘大学21世紀アジア学部の菊川長徳先生です。今年は、39名の留学生と日本人学生が参加しました。参加した学生は、国土舘大学が6名、東京大学と立正大学、大東文化大学がそれぞれ5名、筑波大学とお茶の水女子大学が3名、早稲田大学が1名でした。

私たち参加者は2月24日の午後、那覇空港に到着し、バスとフェリーを乗り継いで伊江島へ移動しました。宿泊は、ホームステイでした。25日午前中は、ホストファミリーと自由時間を過ごしました。伊江島観光協会の専務を務めている小濱さんは、車で伊江島の農業をみせに私たちを連れて行ってくれました。午後は、地元の中学生と一緒に屋我地島の済井出ビーチで掃除活動を行いました。翌26日は、今帰仁城の遺跡と名護市パインアップルパークを見学しました。27日は万座毛を、28日は私の提案で琉球村を、それぞれ見学しました。

2つの研修会に参加した学生は、財団等の奨学生か国費留学生が多かったです。私はこの2週間で大きな刺激を受けました。参加者の多くは、ほとんど英語で会話していたため、英語が喋ることのできない私は黙っていることが多かったです。グローバル化が進んでいる現在、英語が喋ることができないと前に進めないと実感しました。一方、今回の研修会を通じて、多くの友達ができました。また、交流会で多くの留学生と交流することによって、自分の視野も広がったと思います。特に早稲田大学大学院在学のペルー日系人留学生と将来について語り合ったことは、忘れることのできないひと時でした。

私は今回の研修会で多くのことを学びました。とくに沖縄の伊江島の研修会は刺激的でした。日本の離島経済の振興策について学びました。地域農業の発展には、地域ブランドの構築が必要であることを学びました。高付加価値農産物の生産が経済発展へ貢献することを知りました。同時に離島経済の限界、あるいは課題についても学びました。私のみ

ではなく、公共政策を学んでいる東京大学の留学生も、貴重な見学であったと感想を話していました。

私は、2年生の野外実習で宮地コースを選択し、群馬県の農村を見学しました。現在は長谷川ゼミに所属していますが、自然環境の勉強とともに、人間生活の特徴なども学んでいきたいと考えています。今回の2つの研修会は、私に3年生、4年生の学生生活を充実させようという気持ちにさせてくれたものでした。



写真3. 伊江島の菊の温室ハウス



写真4. 伊江島のラッキョウ畑

※今回の研修会は、地元の琉球放送で報道されました。



写真5. ビーチ清掃後のスピーチ発表



写真6. 首里城前で参加者の集合写真

【 2014 年日本地理学会春季学術大会開催報告 】

2014年3月26日～28日、国土舘大学世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎を会場に、2014年日本地理学会春季学術大会が開催されました(3月29日～30日は巡検が行われています:日程は後掲の通りです)。国土舘大学を会場とした日本地理学会は、1998年の春季大会以来、16年ぶりに開催されました。

一般研究発表は、口頭発表が221件、ポスター発表71件のほりました。当初8会場で開催予定でしたが、急遽9会場(＋臨時会場)を用意し、大会運営に当たりました。参加者数は、2日間で合計926名(一般会員:641名、学生会員:133名、一般非会員:60名、学生非会員:92名)、懇親会にも243名(＋招待者、スタッフ)でした。

地理学教室のスタッフは、本大会へ向けて2012年の秋ころから専攻会議で打ち合わせを開始し、2013年度に入ってからほぼ月に1度のペースで「準備委員会」と称した会議を重ねて、準備してきました。実行委員会には、理工学部の乾 睦子先生



写真1. 梅ヶ丘校舎入口に掲げられた会場案内板

をはじめ、池田真志先生（拓殖大）、小堀貴亮先生（共栄大）、佐々木明彦先生（信州大）、清水孝治先生（国士舘大・非）にも加わっていただき、以上の先生方には主として会場運営にご尽力いただきました。アルバイトの学生は、合計で54名にのぼりました。国士舘大学出身の大学院生と国士舘大学地理学会の役員の学生を中心に、会場、受付の役を担ってもらいました。大会に参加された複数の方から、「国士舘大学の学生さんのホスピタリティが素晴らしかった。よい学生さんたちですね。」とお褒めの言葉をいただきました。長時間の仕事で大変であっただろうと思いますが、日本の地理学界で最も大規模な学会運営に携わったことで、学生の地理学への興味・関心が高まっていることを期待したいと思います。また、大きな「イベント」の運営方法についても、その一端でも学んでもらえていればと思っています。

以下、数枚の写真で大会を振り返るとともに、大会実行委員会、アルバイトとして大会運営に携わってもらった学生の皆さんの名前を記しておきたいと思います。

※秋季大会は、9月20日～22日に富山大学で開催される予定です。また、来年の春季大会は、3月下旬に日本大学（文理学部）で開催される予定です。

■大会日程：

- 3月26日（水） 総会・代議員会
- 3月27日（木） 一般研究発表（口頭・ポスター）、公開シンポジウム（4）、会長講演会、特別講演、懇親会
- 3月28日（金） 一般研究発表（口頭、ポスター）、シンポジウム（5）、研究グループ集会
- 3月29日（土）・30日（日） 巡検

■大会実行委員会：

実行委員長：野口泰生
総務：内田順文
会計：磯谷達宏
受付：岡島 建
会場：宮地忠幸・乾 睦子・池田真志・小堀貴亮・佐々木明彦・清水孝治
懇親会：加藤幸治

■アルバイト学生：

大学院生：藤岡英之、上原悠輔、志村衛
4年生：幸田静香、正田一真、高橋理奈子、薙澤楓花
3年生：五十嵐舞、伊東亨起、川口拓也、實光信明、助野庄太郎、鈴木柚里奈、田所正敏、田中智美、中神俊也、中嶋康太、長塚由華、中野壮太郎、中村友美、西谷翔太、西本修司、菱沼美里、古川丈樹、松田憲太郎、山浦大輝、湯元梨紗、吉村美咲、米長知里
2年生：小澤佳奈、遠藤敬太、神谷 朋、河村 実、木内香菜子、小坂祐貴、近藤 健、鈴木貴子、醍醐万純、中根敏江
1年生：伊邊明里、牛尾裕太、大道 楓、北島歩史也、小林美月、佐藤汰嘉、鈴木岳美、谷淵 涼、長谷川彩香、原 裕騎、原 成次、福嶋栄美、増田紋加、諸橋夏海、吉岡大貴



写真2. 全体ミーティングの様子

※大会期間中は、連日午前8時集合でした。



写真3. 受付ブースの様子

※3人一組でしっかり対応しました。

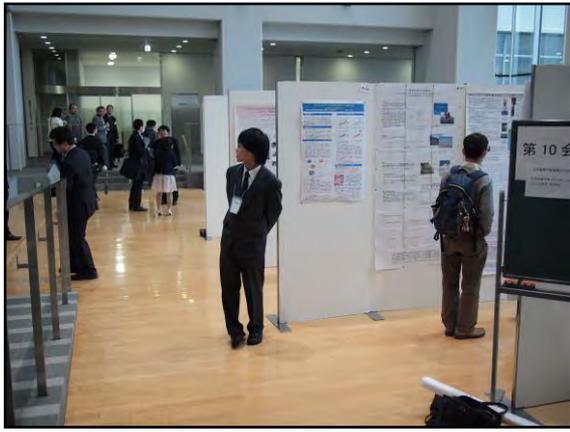


写真4. アトリウムに設けられたポスター会場



写真5. スカイラウンジに設けられた会員控室



写真6. スタッフ控室でくつろぐ学生たち



写真7. 時計係を務めるアルバイト学生



写真8. 会場で発表を聞く大会参加者



写真9. 書籍販売の会場



写真10. 懇親会会場の様子。
※会場から溢れるくらいの参加者です。



写真11. 森川洋先生（広島大学名誉教授）の乾杯
※司会は加藤先生。

【 PDF 化して保存される卒業論文 (2013 年度) 】

・地理学教室では、1986 年度から2012年度までに提出された卒業論文のうち、487編を優秀卒業論文として保存しており、そのリストは地理学教室ホームページに掲載されています。今年度の卒業論文のうち、優秀卒業論文として保存されるのは、下の 8 論文です。2000 年度以降の優秀卒業論文はホームページから閲覧することができ、下の論文もそこに含まれます。ただし、印刷はできません。

閲覧にはパスワード等が必要になります。これに関しては講義やゼミの際に、地理学教室の専任教員から聞いて下さい。不明な点があれば、担当の長谷川 (hasegawa@kokushikan.ac.jp) 先生まで問い合わせてください。

・2014 年 3 月 17 日 (月) に開催された第 62 回全国地理学専攻学生卒業論文発表大会 (「卒論の甲子園」ともいわれる各大学の優秀卒業論文の発表会：日本地理教育学会主催) には、浪床祐貴 (岡島ゼミ)、高橋理奈子 (宮地ゼミ) の両君が選ばれ、発表しました。

氏名	表題	所属ゼミ
添野 真広	栃木県日光市におけるイノシシの分布と被害 －とくに積雪深に着目して－	磯谷ゼミ
有賀 基喜	群馬県吾妻川流域における河辺植生の組成と分布特性 －とくにキャンプ場における人為的影響に着目して－	磯谷ゼミ
市野川 昌也	韓国における医療ツーリズム －大邱広域市を事例にして－	内田ゼミ
影山 沙希子	神奈川県葉山町における小規模経営農家の存続	宮地ゼミ
高橋 由佑	地方ローカル鉄道活性化の事例と課題 －アルピコ交通上高地線を事例として－	岡島ゼミ
鈴木 慶秀	荒川河川敷における好樹液性昆虫の分布特性 －とくにコガネムシ類に着目して－	磯谷ゼミ
浪床 祐貴	筑豊地方の鉄道網の形成とその変遷	岡島ゼミ
高橋 理奈子	脱過疎実現の要因分析	宮地ゼミ



◀ 写真

全国の地理学専攻の学生、教員が集まったなかで報告する高橋理奈子さん。

※3月末に行われた日本地理学会において、公開シンポジウム「『地域調査士』を地理学のパスポートにするには－4年間の事業とこれから－」が開催されました。このなかで、宮地先生が「制度導入による地理学教育への影響」と題した報告を行いました。この報告は、国士舘大学の地域調査士資格の取得へ向けた取り組みの一環として、卒業論文の指導体制の特徴などについて紹介したものです。会場にいた先生方からは、添削の徹底や合議による卒論評価のあり方などについて、評価の声があがっていました。

【 2013年度における教員の研究活動 】

野口 泰生 教授

著書（分担執筆）：

- ・野口泰生（2014）：丘陵地の気候環境—気候学から見る・考える—。国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社，pp.21-31.
- ・加藤幸治・野口泰生・宮地忠幸（2013）：景観写真からみた多摩丘陵の変遷。国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社，pp.113-128.

その他：

- ・野口泰生（2014）Faculty Development（FD）を考える—地理・環境専攻の取り組みと定期試験の「持ち込み」問題—。国土館人文学4号，pp.157-181.

長谷川 均 教授

著書（分担執筆）：

- ・長谷川 均（2013）：関東地方の山地と丘陵そして平野—地形学から見る・考える—。国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社，pp.13-20.
- ・長谷川 均（2013）：フィールドノートの活用法。国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社，pp.92-98.
- ・長谷川 均（2013）：漫湖，ザルカ川，ヨルダン川。高橋裕編『全世界の河川事典』丸善出版，p.577，p.673，p.673.
- ・長谷川 均（2013）：GIS教育。人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版，pp.638-639.

論文：

- ・長谷川 均（2014）：UAV（自律型飛行体）を使った高解像空中写真の撮影と活用—サンゴ礁浅海域での事例—。国土館大学地理学報告22号，pp.13-21.

学会発表：

- ・菅 浩伸ほか15名（2014）：高解像度マルチビーム測深による浅海底地形学の開拓と関連諸科学への応用。日本地理学会2014年春季学術大会，2014年3月28日，国土館大学。
- ・長谷川 均・後藤智哉・東郷正美・Mahmoud Al-Qaryouti（2014）：ヨルダン渓谷を撮影した1950年代初頭の空中写真—その概要と保存・修復。日本地理学会2014年春季学術大会，2014年3月28日，国土館大学。
- ・東郷正美・長谷川 均・後藤智哉・石山達也・牛木久雄・Tawfiq Al-Yazjeen・Mahmoud Al-Qaryouti・Khalid Momani（2014）：ヨルダン，Karamah地区におけるヨルダン・ヴァレー断層帯の最近の活動。日本地理学会2014年春季学術大会，2014年3月28日，国土館大学。
- ・長谷川 均，磯谷達宏，小野勇（2014）：UAV（自律型飛行体）を使った空中写真の活用。日本地理学会2014年春季学術大会，2014年3月28日，国土館大学。
- ・長谷川均（2014）：日本地理学会シンポジウム「地域調査士」を地理学のパスポートにするには（パネリストとして発表）。日本地理学会2014年春季学術大会，2014年3月27日，国土館大学。

その他：

- ・長谷川 均，岡田真介，石山達也，後藤智哉，東郷正美（2013）：『歴史的空中写真の保存修復とヨルダン・ハシュミテ王国の景観・地形の復元』国土地理協会平成24年度研究助成金報告書。27p.
- ・長谷川 均（2013）：松川浦と周辺地域の変化。WWF ジャパン編『WWF ジャパン暮らしと自然の復興プロジェクト実施報告書』pp.60-67.
- ・THE 世界遺産4K「イエローストーン国立公園」（2013年8月3日放映）BS-TBS 衛星画像作成・提供。

学会活動：

- ・日本地理学会資格専門委員会，副委員長
- ・日本地理学会GIS学術士認定委員会委員

表彰：

- ・日本リモートセンシング学会平成24年度論文賞。

内田 順文 教授

著書（分担執筆）：

- ・内田順文（2013）：地理学的見方・考え方とは. 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.5-12.
- ・内田順文（2013）：アニメ作品に描かれた農村と里山の風景—人文主義地理学から見る・考える—. 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.52-61.

論文：

- ・大野勲・内田順文（2014）：大岡昇平『武蔵野夫人』の舞台に関する地理学的考察—「はげ」の家の位置をめぐって—. 国士舘大学地理学報告 22 号, pp.1-11.

その他（講演）：

- ・内田順文（2014）：古代都城プランと風水説. 三鷹市市民大学事業「武蔵野の意味を探る会」, 2014 年 1 月 25 日, 三鷹市社会教育会館.

岡島 建 教授

著書（分担執筆）：

- ・岡島 建（2013）：交通路の歴史的変遷—歴史地理学から見る・考える—. 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.45-51.
- ・岡島 建（2013）：近世・近代の水運と流通. 人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版, pp.422-423.

学会活動：

- ・歴史地理学会 評議員, 常任委員会庶務委員長

磯谷 達宏 教授

著書（分担執筆）：

- ・磯谷達宏（2013）：多摩丘陵の植生—植生地理学から見る・考える—. 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.32-44.
- ・磯谷達宏（2013）：景観写真の撮り方. 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.99-105.

学会発表：

- ・瓜生真也・鄭 欣怡・磯谷達宏・吉田圭一郎・酒井暁子（2014）：安定した成熟林におけるアカガシの萌芽能力の違いと生活史戦略との関係. 日本生態学会第61回大会, 2014年3月16日, 広島国際会議場.
- ・長谷川均・磯谷達宏・小野 勇（2014）：UAV（自律型飛行体）を使った空中写真の活用. 日本地理学会2014年春季学術大会, 2014年3月27日, 国士舘大学.

その他：

- ・磯谷達宏（2013）：函南原生林—照葉と夏緑広葉の森林帯境界の森—. 森林科学 69 号, pp.28-29.

学会活動：

- ・日本生態学会 和文誌編集委員
- ・「生態環境研究」編集委員（財団法人地球環境戦略機関国際生態学センター）

その他（委嘱業務）：

- ・平成 26 年度国家公務員採用総合職試験（森林・自然環境）試験専門委員（人事院）

加藤 幸治 教授

著書（分担執筆）：

- ・加藤幸治（2013）：多摩地域の都市開発と土地利用—経済地理学からみる・考える—. 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.62-66.
- ・加藤幸治（2013）：地形図の利用. 国士舘大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え

方一』国際文献社, pp.86-91.

- ・加藤幸治 (2013) : レポートの書き方. 国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.106-111.
- ・加藤幸治・野口泰生・宮地忠幸 (2013) : 景観写真からみた多摩丘陵の変遷. 国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.113-128.

学会発表 :

- ・加藤幸治 (2014) : サービス立地論についての覚書. 経済地理学会北東支部 2 月例会, 2014 年 2 月 15 日, 阿寒湖まわりむ館.

学会活動 :

- ・経済地理学会 評議員, 総務委員会委員長
- ・地理科学学会 会計監査

宮地 忠幸 准教授

著書 (分担執筆) :

- ・宮地忠幸 (2013) : 多摩地域の都市農業の多面的役割—農業地理学からみる・考える—. 国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.67-77.
- ・宮地忠幸 (2013) : 野外調査の必要性と留意点. 国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.79-85.
- ・加藤幸治・野口泰生・宮地忠幸 (2013) : 景観写真からみた多摩丘陵の変遷. 国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社, pp.113-128.
- ・宮地忠幸 (2013) : 中山間地域. 人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版, pp.400-403.

論文 :

- ・宮地忠幸 (2013) : 多摩川梨産地のいま—稲城の梨は「幻の梨」—. 地理 58-10, pp.60-68.
- ・中川秀一・宮地忠幸・高柳長直 (2013) : 日本における内発的発展論と農村分野の課題—その系譜と農村地理学分野の実証研究を踏まえて—. 農村計画学会誌 32-3, pp.380-383.
- ・宮地忠幸・高柳長直・中川秀一 (2014) : 農村の 6 次産業化—期待と論点—. 地理 59-3, pp.16-23.
- ・宮地忠幸 (2014) : 十勝地域にみる 6 次産業化の展開とその意義. 地理 59-3, pp.59-69.
- ・宮地忠幸 (2014) : 山村農業の変容とその存立要因. 国土館人文学 4 号, pp.69-86.

学会発表 :

- ・宮地忠幸 (2014) : パネルディスカッションのパネラーとして参加. 「3.11 東日本大震災と内発的復興—農山村と都市の新しい結びつきを考える—」, 地域のカフォーラム, 2014 年 2 月 16 日, 日本青年館.
- ・宮地忠幸 (2014) : 日本地理学会シンポジウム「地域調査士」を地理学のパスポートにするには (パネリストとして発表). 日本地理学会 2014 年春季学術大会, 2014 年 3 月 27 日, 国土館大学.

その他 :

- ・宮地忠幸 (2013) : 阿武隈高地に広がる新たな地域づくりへの挑戦—東和地区・岩代地区の取り組みからみえること—. 地図中心 495 号, pp.12-17.
- ・宮地忠幸 (2014) : 阿武隈の山里から学んでいること. 日本大学文理学部地理学科同窓会通信 19 号, pp.8-9.

学会活動 :

- ・経済地理学会 関東支部幹事
- ・歴史地理学会 集会委員
- ・日本地理学会 資格専門委員
- ・日本地理教育学会 評議員

その他 (委嘱業務) :

- ・日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会 認証判定委員
- ・全国商工会連合会 小規模事業者新事業全国展開支援事業予備審査委員
- ・一般財団法人 CSO ネットワーク「地域のカフォーラム」委員

速報！

海外研修の日程が決定！！

4年に1度行われる地理・環境専攻主催の「海外研修」の日程と研修先が決まりました。詳細は、追って専攻の掲示板等でお知らせしますが、まずは速報をお届けします。

日 程：2015年2月13日～19日（5泊7日）
研 修 先：アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島
引率教員：長谷川 均・宮地忠幸
募集人数：20名

※最少催行人数：15名



▲写真. ダイヤモンドヘッドから見たワイキキの街

主な研修先：ハワイ大学（地理学教室見学）、ワイキキ地区（観光地の見学）、日本人文化センター（日系移民の歴史を学ぶ）、ドールプランテーション（熱帯農業の学習、観光農園の見学）、真珠湾（太平洋歴史公園の見学等）、アラモアナ・ショッピングセンター（大型商業施設の見学）、そのほか島内各所のエクスカージョン（海岸地形、植生の観察、エビ養殖地、農村景観など）

申し込み期間：6月20日～9月30日（予定）※申し込み方法は、後日専攻掲示板に掲示します。

参加費（概算）：20万円（保険代、食事代を除く）

本件のお問い合わせ先：宮地忠幸（tmiyachi@kokushikan.ac.jp）まで

【新刊案内】

国土館大学地理学教室編『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』国際文献社

ISBN：978-4-902590-32-6 C3025

定 価：1800円＋税

地理学教室の専任教員7名で、『地理学野外調査入門—多摩丘陵の地理学的見方・考え方—』を国際文献社より出版しました（2013年5月）。

この本は、直接的には1年生の必修科目「地理学野外実習A」のテキスト（として刊行したもの）ですが、内容を検討する過程で、それぞれの専門分野における地理学の見方・考え方を解説する（第I部）とともに、野外調査一般で活用できるノウハウを簡潔に説明した（第II部）、まさに地理学・野外調査の入門書です。

今後、いくつかの学術雑誌で書評を出していただけそうです。教室のスタッフは、改訂版を視野に、内容をさらに検討していく予定です。

